

2010年1月29日

## ドパミンD<sub>1</sub>、D<sub>2</sub>作動性パーキンソン病治療剤 「ペルマックス<sup>®</sup>錠50 $\mu$ g、同250 $\mu$ g」の販売移管について

協和発酵キリン株式会社(東京都千代田区 社長:松田 譲 以下「協和発酵キリン」)は、イーライリリー・アンド・カンパニー(米国インディアナ州 CEO:ジョン・レックライター 以下「米国イーライリリー」)と日本イーライリリー株式会社(兵庫県神戸市中央区 社長:アルフォンゾ・G・ズルエッタ 以下「日本イーライリリー」)との間で、1994年8月に日本イーライリリーが日本で製造販売承認を取得し販売を行ってきた、ドパミンD<sub>1</sub>、D<sub>2</sub>作動性パーキンソン病治療剤「ペルマックス<sup>®</sup>錠50 $\mu$ g」および「ペルマックス<sup>®</sup>錠250 $\mu$ g」(一般名:ペルゴリドメシル酸塩錠)について、本年4月1日付で、その製造販売承認を日本イーライリリーから承継し、同日より協和発酵キリンが単独販売を開始することに合意しましたのでお知らせいたします。

「ペルマックス<sup>®</sup>錠」は、1989年米国イーライリリーが開発したドパミンアゴニストで、D<sub>1</sub> およびD<sub>2</sub>の両ドパミン受容体に作用して、抗パーキンソン病効果を示すという薬理作用を有しています。現在英国など数十カ国でパーキンソン病治療剤として承認を受け、広く臨床応用されています。

なお、当社は現在、パーキンソン病治療剤としてKW-6500(アポモルフイン)、KW-6002(イストラドフィリン)を臨床開発中であり、神経疾患領域への一層の寄与・貢献ができるものと考えています。

### 【ペルマックス<sup>®</sup>錠50 $\mu$ g、同250 $\mu$ gの製品概要】

製品名：「ペルマックス<sup>®</sup>錠50 $\mu$ g」,「ペルマックス<sup>®</sup>錠250 $\mu$ g」(一般名:ペルゴリドメシル酸塩錠)

効能・効果：パーキンソン病

用法・用量：本剤は通常、L-dopa 製剤と併用する。通常ペルゴリドとして1日1回50 $\mu$ gを夕食直後2日間投与する。以後、2ないし3日ごと、1日用量として50 $\mu$ gずつ増量し第1週末には1日用量として150 $\mu$ gを投与する。

第2週目は1日用量として300 $\mu$ gより開始し、2ないし3日ごと1日用量として150 $\mu$ gずつ増量する。第2週末には1日用量として600 $\mu$ gを投与する。1日用量100 $\mu$ gの場合は朝食及び夕食後に、1日用量150 $\mu$ g以上の場合は毎食直後に分けて経口投与する。

第3週目は1日用量750 $\mu$ gより開始し、以後有効性及び安全性を考慮しつつ増量し、維持量(標準1日750 $\mu$ g~1250 $\mu$ g)を定める。なお、上に定める投与量増量速度は随伴症状、年齢等により適宜増減する。

主な特徴：①L-dopa 製剤と併用するドパミンアゴニスト

②D<sub>1</sub>、D<sub>2</sub>ドパミン受容体への高い親和性

③早期の効果発現とその持続

④wearing-off 現象、すくみ足を改善

《本件に関するお問い合わせ先》

協和発酵キリン コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-3282-1903